

国際文化学部コミュニケーション学科

異文化コミュニケーション講座

西 直子

- 目次
1. はじめに
 2. JICA 就職活動スケジュール
 3. JICA を目指す方へのアドバイス

1. はじめに

異文化講座の来栖ゼミに所属している西直子と申します。JICA を目指す方のために、私自身の JICA に採用が決定されるまでの経緯と、就活に関するアドバイスをこれから紹介していきたいと思います。お役に立てれば幸いです。

私は、3 回生の八月から 4 回生の 6 月下旬まで、交換留学で英国シェフィールド大学に行っていました。そのため、就活活動を始めたのは、帰国してからとなったので、一般企業などのセミナーに参加したり、面接を受けたりするという機会を多く持つ事はできませんでした。しかし、夏期には帰国した留学生対象の採用が、いくつかの企業で行われており、それらに参加することによって、面接慣れすることができたと思います。就職活動は労力を費やすと思いますが、JICA を志望する方で一般企業を考えていない方でも、面接を何回か受けてみる事で、自己分析に役立たせる事ができ、本番でより一層力が発揮できるのではないのでしょうか。

さて、どのような学生が採用されたのかについて紹介すると、2001 年内定者は 40 人強、男:女 = 3 : 2 位です。内、院生は 10 人程度、主に理系の方です。出身学部は、様々で、土木や情報系の方から、政治学系、文学部と様々です。留学経験者や、NGO 活動などで海外滞在経験のある方が半数程です。専門科目や、バックグラウンドなど多様です。自分なりにアピールできることを用意しておくといいでしょう。

まず、JICA の職員採用過程とその中身を紹介していきたいとおもいます。(採用情報は JICA ホームページで知る事ができます。)

2. JICA 就職活動スケジュール(2001年の場合)

職員採用説明会が開催される。

5月下旬 願書締め切り

・願書 願書に書いた志望動機を基に、後の面接で質問がなされるので、アピールしたい事はなるべく盛り込んで、意思を明確に、且つ慎重に書く事をお勧めします。

6月30日 全国各地で第一次試験

(大阪会場だけで 200 人くらい、全国で 2000 人位だったらしい。)

・一般教養試験：時事問題、特に新聞の国際面に掲載されているような事柄に関するものが多かった。又、ODA に関する問いもあった。その年の日本の ODA について調べておくといいかも。ドイツ料理に関する問題なども混じっていて、普段、如何にいろいろな事柄に関心を持ってアンテナを張り巡らせているかを試すような出題。私自身は、留学中に起きた日本国内のニュースに関しては、知識が薄く、自信を持って答えられた問いは少なかったもので、どれほどの正答率が求められているのかは分からない。

・語学試験：英語、フランス語、中国語、スペイン語、等の中から選択。長文読解がほとんどであったと思う。英語に関して難易度は TOEIC より少し難しく、TOEFL くらいだったと思う。量が多く、私は時間がぎりぎりになってしまった。最後のほうは超スピードで回答し、手に汗握るっぽくなってしまった。私の場合は、TOEIC で 880 位だった。必要とされる語学力だが、本年の内定者 40 人の半数位は留学、NGO の活動といった形で一年以上海外在住経験のある者がいたが、外国語がすごくできなくても努力しようとする意思があることが大切だと思う。内定後、TOEIC 730 点獲得を目標に語学教育が行われる。内定時点で 730 に到達していない人は何人もいるので、自分なりに語学力向上を目指して頑張っていけばいいと思う。普段から自主的に勉強していく事が大切。

・小論文

毎年様々なテーマでの小論文が出題される。時間は一時間あったかなかった位だったと思う。2001 年度のテーマは、既にはっきり覚えていないので申し訳ないが、(ごめんなさい。)"あなたにとって国際協力とはどういうことですか。"といったようなテーマだったと思う。この小論文が、願書の志望動機と共に重要になってくるのではないかと思われる。国際協力を専門的に勉強していなくても、自分の学んできた事を生かして、又、自分なりの国際協力に対する思いを主張して論文を執筆すれば良いのではないだろうか。

7月5日 第一次試験の結果通知

第一次試験通過者数は、200 人程度だと予測します。あくまで予測なので確かではありません。

7月10日 JICA 第二次試験、面接(新宿 JICA 本部にて)

・適性試験：性格判断テストのようなものを小一時間ほど受ける。この試験には特に準備は要らない。正解不正解のないマーク式アンケートのようなものだった。

・面接：一人 15 分ほどの面接。面接官二人で、願書に書いた事を基に、質問をされる。面接官の質問が終了後、自分から質問しても良い。参考までに、私がされた質問内容は、

志望動機 大学で何を学んだか 留学動機 留学中一番一番辛かった事、又如何に克服したか 留学で得た一番大切なこと 今までの人生で一番がんばった事 JICA に入ったらどのような活動をしたいか JICA の仕事には事務的なものも多いが、自分が人事課や経理に配属になったらどう思うか、がんばれるか JICA の他に進行中の就職活動 これからしたいこと これまで、発展途上国に行った事はあるか、そのとき何を感じたか JICA で海外派遣になった場合、生活力、体力、精神力は自分に備わっ

ていると思うか e t c .

だった。この面接では、人物像を見る事に重点を置かれているようにおもった。私は、山登りをするので、何日も山中で生活したりすることがあり、どんな環境でも生きていける自信があるといったようなことや、大学寮の寮長を経験したので、組織を運営する困難さや、外部との交渉に関して重要な事を自分なりに説明した。部活やバイトやその他の活動における経験を活用して自己アピールできると思う。留学経験がわたしにはプラスになった。何でも良いと思うので、自分らしさをアピールすればいいと思う。“こいつを採らずに誰を採る！”と置いていただくよう努力する。

7月17日 第二次試験、面接の結果

この時点で、200人から50人くらいになる。

7月26日 最終面接、健康診断

・健康診断：クリニックで受ける。日頃から健康には注意しましょう。

・面接：20分くらい。面接官は全員で10人くらい、四方を囲まれていてすごく緊張した。メインの面接官が無表情で、鋭い突っ込みをされた。その横には人事課長がにこにここと笑っていていらっしゃったのでついそちらばかり見てしまう。ここでされた質問は、人物像を見るというよりは、国際協力に関してどのような見解を持っているかを見るという感じのものが多かった。質問をいくつか挙げると、

子供たちに Globalization を説明するとしたらどのように説明するか ODA の削減が叫ばれているが、日本の ODA の使い方をどう思うか これからの国際協力はどうあるべきか etc. といったものであった。普段から、考えてはいても、緊張するとむちゃくちゃな事を口走ってしまうので、落ち着く事が一番。厳しい突っ込みに対してはひるまない。人事課の方のお話によると、鋭い突っ込みをされたときに、どのように対処するかを見ていらっしゃるそうだ。発言内容が正しい、間違っているという事はあまり重要でないらしい。後で聞くと、内定者のほとんどは最終面接でだめだと思ったらしい。黙り込んでしまうと一番だめで、“勉強不足でした”、とか、“そういう見方もあると思います”、など何か発言して切り返すコミュニケーション能力が試されているそうだ。

8月10日 合格通知

ここで、50人が40人強に絞られ、晴れて内定となる。

3 . JICA を目指す方へのアドヴァイス

私が就職活動、及び、その後の JICA 職員の方々や、内定者の方々とお会いする機会を通して感じた事は、国際協力は、人づくり、国づくりを目指すものであり、その担い手となるには、つよく、やさしい“心”を養うことが大切なのだということです。まだ、仕事を始めてはいませんので、現時点での私の見解ですが。JICA の場合、国の機関としての役割を负っているのです、日本の国益と照らし合わせて国際協力を進めていく必要が出て来る訳です。それらを考慮する冷静な頭と、行動力、社会性、コミュニケーション能力は仕事に必要であ

り、採用過程で学生に求められる事だと思います。より重要な要素として、国際協力をより大きいものにするには、被援助国の人々の幸福を願う心、人間性が不可欠であると思います。

語学にしろ、NGO 活動や、部活、バイト経験など自分のプラスになって成長させてくれるものを貪欲に頑張る事はもちろん、自分の周りのいろいろな人と関わって話していくことも自分を成長させるのにとっても貢献すると思います。

私が実行できなかった反省を込めて、最後に加えると、JICA という政府の期間を通した国際協力に携わる前に、NGO など民間の活動を通して国際協力を体験し、JICA の国際協力を第三者として客観的に見る事は、非常に意味があると思います。

国際協力には JICA を通したものだけではなく、NGO を始め一般企業によって進められているものも多くあります。いろいろなチャンネルを選択肢に入れて、これから国際協力に関わっていきたいと考えている方は頑張っていって欲しいと思います。

多少になりとも、皆様のお役に立てられたら幸いです。 西 直子 2001 . 01 . 21